

週問食卓日記

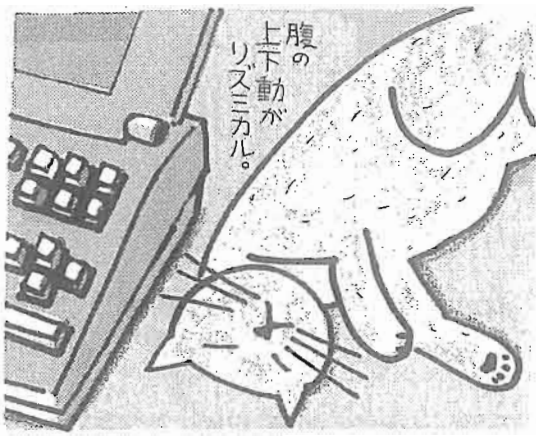
連載 894回

私の週2度でも飽きない老舗そば屋の「穴子2本とせいそ」

渡辺利夫



(拓殖大学総長)
1939年山梨県生まれ。慶應義塾大学卒。経済学博士。専門は経済政策。筑波大学、東京工業大学教授を歴任。著書に『開発経済学』『神経症の時代』(わか内なる森田正馬)。



9月16日(水)

もともと夜型人間だが、このころ妙な癖がついてしまった。深更3時頃に就寝、朝6時に目覚めて一人で朝食。それからもう一度布団にもぐって10時に起床、仕事を始めるというパターンである。朝食は決まっ

ていて、トマトジュース、ヨーグルト、キウイ、チーズ、トースト、牛乳入りの紅茶。今日は終日自宅で産経新聞「正論」原稿の執筆。妻はニッポン放送で電話人生相談をやっ

9月17日(木)

午前中は大学の来年度任用人事の選考会議で気が抜けない。昼食はキャンパス近くの老舗のそば屋で穴子

だから、これでいいのだろう。身長165センチ。

9月21日(月)

幸福論の出だし好調。40字×40行のワープロ原稿が2日間で6枚となって気持ちいい。4歳半の雌猫がワープロの横で寝ている。腹の上下動がリズムカル。ランチはスープのイトインでサンドイッチ、チーズパンにコーヒー。夜はサラダの上にクリームコロッケを乗せただけのおかずソーメン。ソーメンは小豆島製。この6月に「放哉と山頭火」死を生きた小豆島に、この1年間、私は何

が、尾崎放哉が最後の8ヶ月を過ごした小豆島に、この1年間、私は何度か取材に出かけた。放哉の生活を支えた「層雲」同人の島の素封家井上一二氏の縁に連なる井上泰好さん

2本とせいそ。週に2度ほど食べているのだが飽きない。午後3時に講義「歴史の中の拓殖大学」。後期初日のレクチャーで少々熱が入り過ぎたようだ。講義が終わって、日越シンポジウムのためのビデオメッセー

9月18日(金)

八王子国際キャンパスで今年前期に開講した「新渡戸稲造塾」の修了式に出席。8時に自宅を出る。昨夜は3時間しか寝ていない。新宿・高尾間の中央線で熟睡。修了式の後

ままに熱さめて居り」。業病を抱え小豆島西光寺別院の粗末な庵での寂寥を詠んだ放哉の句が頭をよぎる。

9月22日(火)

私は腕時計が嫌いでいつもポケットウォッチ。これをどこかに置き忘れてきたらしい。有楽町駅前のビツクカメラで一番安いのを買い、ランチは近所のオフィスビル地下のレストランでスバゲッティとコーヒー。私は40年来のスモーカー。最近

長と私の3人で、拓殖大学国際協力研究機構のメインプロジェクト「日本統治時代の台湾」の来年度の研究計画を練る。夜は東京駅ステーションホテルで大学教職員の懇親会。料理は一流だが、立食というのが私はどうも苦手。寿司を少々。帰宅してチーズパン1個。

9月19日(土)

靖国神社で毎年開いている「映画『東京裁判』を見る会」で4時間の鑑賞。参加者は60名ほど。ランチは牡蠣の唐揚げのハコ弁。鑑賞後、「戦後70年とは何であったか」と題して私が1時間の講演。靖国通りを挟んだ台湾料理屋で出席者との懇親会。当夜は旧友の呉善花さんとその友人の3人でのデザイナーの約東があるの

9月20日(日)

今日から4連休。自宅に籠り、か

重、持病も無く日々の食欲も普通にある。これが健康な暮らしというものだろうと思う。奥様が気になさるのは、現状に更に積み上げるとしたら何かしらということなのだろう。ハコ弁、駅弁と料亭の弁当とでは、呼び方は同じでも食材の数が一桁から二十数種類の幅が出る。では家庭でどうすればいいかと言えば、弁当にチーズやナッツ、果物、煮豆など保存性の高い食品を添えると、機能が一段とアップする。 76点

アドバイス
食生活ユニバーシティ代表
献立評論家(管理栄養士)
荒牧麻子

プロの手になるナスの味噌和えが印象深い味わいだったことを奥様に話した渡辺さん。返って来たのは「料理ってそんなに簡単なものじゃないのよ」の一言。料理名は同じでも、主婦の立場、プロの料理人、それぞれの技とレシピがあるということだろうか。

さて、気晴らしの散歩に変わらぬ体